

都道府県・ 指定都市番号	25	都道府県・ 指定都市名	滋賀県	研究課題番号・校種名	3 (5) 幼稚園・保育所・小学校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・ 生徒数)	こうかしりつこうなんちゅうぶしょうがっこう 甲賀市立甲南中部小学校 (174 人)  こうかしこうなんみなみほいくえん 甲賀市甲南南保育園 (66 人)  もりしまがくえんこうなんようちえん 森島学園甲南幼稚園 (202 人)			学校・地域の特色及び実態等 ○甲南中部小学校は全学年単級であり，児童は地域の複数の公立保育所，私立幼稚園から就学している。校種間連携は平成 29 年度より始めた。 ○私立甲南幼稚園や公立甲南南保育園からは地域の複数の小学校に就学している。	
所在地 (電話番号)	【甲南中部小】滋賀県甲賀市甲南町竜法師 1137 (0748-86-2139) 【甲南南保】滋賀県甲賀市甲南町野尻 231 (0748-86-3176) 【甲南幼】滋賀県甲賀市甲南町野田 604 (0748-86-8088)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://edu.city.koka.lg.jp/kounantyubusyo/">http://edu.city.koka.lg.jp/kounantyubusyo/</a>				
研究のキーワード	・自発的な遊び      ・連続性のある教育課程      ・言語活動 ・アプローチカリキュラム      ・スタートカリキュラム				
研究結果のポイント	○同じ地域の幼稚園教員，保育士，小学校教員(以下「教員・保育士」とする)が保育や授業を参観し交流することにより，幼保小接続を深めることの意義が共有できた。 ○相互の参観や合同研修会での協議を通して，幼稚園，保育所(以下「園」とする)と小学校の幼保小接続のカリキュラムづくりのポイントや課題の整理ができた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

就学前から小学校への連続性のあるスムーズな学びの接続のための教育課程の編成と指導方法の工夫改善

(2) 研究主題設定の理由

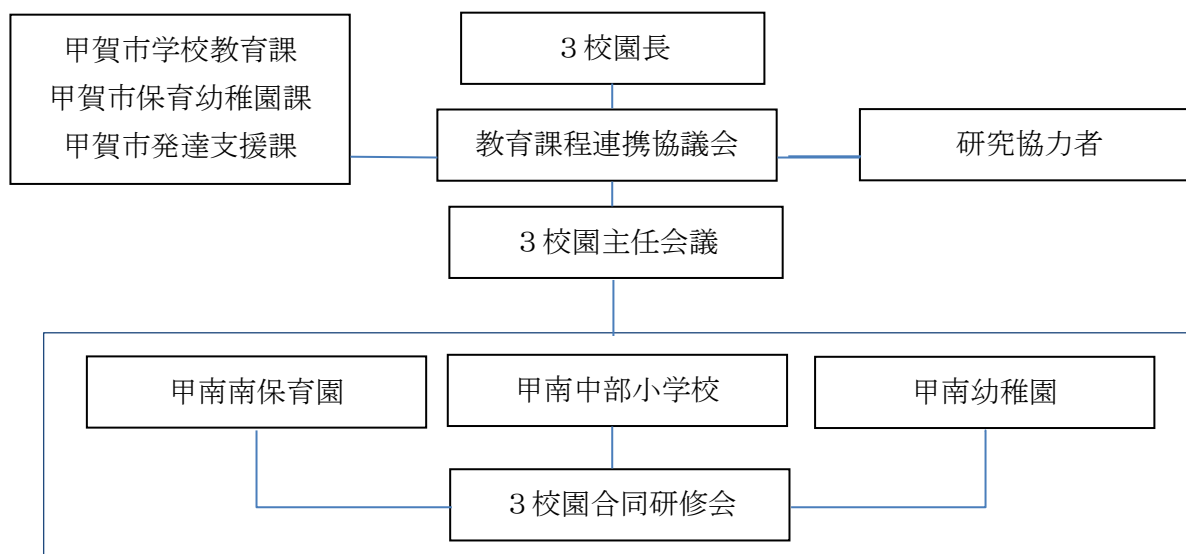
本地域の子供たちは，地域の温かいつながりの中で，登校時に元気にあいさつをするなど，明るく素直に育ってきている。その一方で，甲南中部小学校においては，相手に分かるように伝える力に課題がみられ，誤解や勘違いから児童同士のトラブルに発展することもある。文部科学省が平成 14 年に実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」のために作成された「児童・生徒理解に関するチェック・リスト」を使用し，甲南中部小学校の傾向を分析した結果からは，「聞き間違い・聞きもらし・筋道の通った話をするのが難しい・読みにくい字を書く・漢字の細かい部分を書き間違える」などの特徴が見られた。これら「話す・聞く・書く・読む」は，小学校において学ぶ力を形成していく上で基礎となるものである。

幼児期の教育では，幼児の生活リズムに合わせた流れの中で，幼児たちの「主体的な活動」，「自

発的な活動」を通して、豊かな体験を基に遊びを通して総合的に学んでいくことが求められている。一方、小学校では、時間割に沿った一日の流れの中で、各教科等の学習内容を系統的に学ぶことが求められている。この違いを3校園の教員・保育士が踏まえつつ、学びをつないでいくことで、園と小学校の学びの充実につながると考える。

そこで、園と小学校が互いの違いについて理解し合った上で、学びをスムーズに接続すること、特に、「話す・聞く・読む・書く」などの言語活動の充実に焦点を当て、個々の特性に目を向け、個に応じた指導・支援の連続性を目指したいと考える。本研究は、幼児期の教育において小学校教育を前倒して行うことを意図したものではなく、園での遊びや環境の工夫による指導、小学校での言語活動(国語科を窓口)に焦点をあて、教育課程の接続の在り方について追究する。

### (3) 研究体制



滋賀県教育委員会指導主事、びわこ学院大学教授から指導助言を受ける。

### (4) 1年目の主な取組

平成29年度	6月	・連携協議会の開催	・保育, 授業参観	6月~8月	・校内体制の構築
	7月	・校内研修会		7月~8月	・甲南南保育園訪問
	8月	・第一回三校園合同研修会	・市教委, 保育幼稚園課との協議		
	10月	・第二回三校園合同研修会	・甲南幼稚園訪問		
	11月	・三校園主任によるカリキュラム作成会議	・甲南中部小学校訪問		
	12月	・三校園主任によるカリキュラム作成会議			
	1月	・三校園主任によるカリキュラム作成会議			
	2月	・甲南中部小学校訪問			
	3月	・第三回三校園合同研修会			

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①校種間連携の基本となる相互理解

私立幼稚園・公立保育所・公立小学校の3校園間で、校種間連携を推進する第一の取組として、3校園の教員・保育士が互いに園と小学校を訪問し合い、保育や授業の様子、幼児・児童の遊びや学習の様子を把握した。また、参観を受けて3校園で意見を交流することで、教員・保育士が相互

に、園での遊びは、幼児の「～したい」という思いにより遊びが工夫され発展していき、友達と言葉で伝え合うことで広がり深まっていくことを共有した。また、園での学びの芽生えと小学校での自覚的な学び、時間割や評価など校種間の違い等について理解を深めていった。

## ②言語活動の充実を目指したカリキュラム編成

小学校では国語科と生活科を中心としたスタートカリキュラム作成に取り組み、園では小学校生活に円滑に移行していくための5歳児（1月～3月）のカリキュラム(以下、「アプローチカリキュラム」とする)作成に取り組んでいる。3校園は、同じ地域の校園であるが、子供たちの多くが一つの小学校に就学するわけではない。また、園と小学校との違いだけでなく、私立園と公立園の違いもあり、同じ土俵でやりきることの難しさがある。それぞれの独自性を大切にしつつ、これらの違いを言語活動の充実を図る観点からつないでいく。保育・授業参観を参考に、園では3学期から、小学校では4月から実施する中で、幼児・児童の観察を通して、言語活動の充実を柱にカリキュラムの充実を図る。

### （2）具体的な研究活動

#### ①校種間連携の基本となる相互理解 【組織をつなぐ】

園と小学校の教員・保育士が校種間の連携を進めるに当たり、互いの特徴や違いを理解し合う必要があることから園・小学校の相互参観を実施した。実施に当たっては、園・小学校の幼児や児童の通常の様子を、一定公開期間を設定し、できるだけ多くの教員・保育士が参加していくものとした。小学校教員が保育参観をするに当たって、甲賀市保育幼稚園課より講師を招いて事前研修会を実施し、遊びの中の幼児の思いや意図を見取る視点を共有した。また、2回の3校園合同研修会を開催し、幼児・児童の具体的な姿を基に意見交流を図った。

小学校教員が保育参観し、幼児が遊びに没頭する中で様々なことを学んでいることを把握した。幼児が自発的に遊び込む姿が多いこと、遊びが連続し発展していく中で、学びが深まっていく様子が見られた。また、「次は～したい」、「～してみよう」と感じられる空間や材料や時間の確保等の環境の構成が大切であることや、幼児同士の関わり合いや教員・保育士の仲立ちによって気付きや学びが広がること等が幼小接続の大切なポイントとして浮かび上がった。さらに、ダンスの活動の場面で、ダイナミックな体の動きが手首を動かすことにつながり、鉛筆で字を書くときの指先のコントロールにもつながっていくとの説明を聞くなど、園での幼児の活動が小学校の学びへのつながりを参加者で共有した。

小学校の参観では、人の話を聞く姿勢、話す声の大きさや分かりやすく伝えることなど、園での指導が、小学校においても大切にされていること、教員が児童のつぶやきを拾ったり、児童の発表をつないだり、また、児童同士で話し合う等が、小学校の学びのポイントとして浮かび上がった。

また、参加者からは、園で大事にしている子供の主体性が、小学校での授業や生活にどのように生かされていくのかという疑問が出され、相互理解を更に深めていく必要があることが確認できた。

#### ②言語活動の充実を目指したカリキュラム編成 【教育をつなぐ】

合同研修会では、参観で気付いたことや疑問に感じたこと、保幼小接続について感じていることをテーマにグループで意見交流を図った。その中から、言語活動の充実につながる点を整理し、保幼小接続のためのカリキュラムづくりを進めていく上で大切にしたい視点を明らかにした。

言語活動の充実につながる点として、園でも朝の会で日直がクラスの前で話す機会が設定されていることや、文字に対する興味を自然に持てるように場が設定されていて、幼児が意欲的に興味を

持って読んでいる姿が見られたことから、幼児の思いや発展していく思考を予想した環境の構成や場の設定、カリキュラムが必要であることを確認した。子供は、自分が話したことを相手に受け止められた経験が、また話したいという意欲につながることから、教員・保育士は感性豊かに子供の言葉を受け止め、本人に返したり周りの子供に広げたりする支援が有効であることを共有した。異年齢の交流活動により、幼児が下学年の幼児に分かるように言葉がけや教え方を工夫することは、伝える喜びや楽しさにつながることも整理することができた。

以上のことを踏まえて、カリキュラムの接続につながる点として、保育所・幼稚園で取り組んだことが、小学校の学びにどのようなようにつながるかを明らかにし、カリキュラムの中で活動が連続していると、幼児が明日の遊びへの期待を持ちやすいこと、想像力を膨らませる環境の構成が大切であることや子供同士の交流活動により、幼児の上の学年へのあこがれ、小学校へのあこがれを育てる場面を設定することが大切であることを確認した。

2園では、甲賀市作成の年間のアプローチカリキュラムをベースに、上記の3校園での参観と合同研修会で浮かび上がった点を整理し、5歳児の就学前のアプローチカリキュラムづくりに取り組んでいる。小学校においても、上記の点を踏まえたスタートカリキュラムの作成に取り組んでいる。また、3校園の主任会議においては、園と小学校の子供同士の交流活動が幼小接続に大切であることを改めて確認した。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 園と小学校の相互の参観や合同研修会により、園と小学校の教員・保育士の相互理解が図れ、園と小学校の特徴や違いを理解した。
- 小学校の教員は、園参観において幼児の自発的に遊ぶ姿を知り、幼児自身が「次はこうしたい」と感じて遊びが連続して発展していくこと、そのために環境の構成や幼児同士の関わり合いや異年齢交流、教員・保育士の仲立ちが大切であることを知ることができた。園の教員・保育士は、小学校参観により、人の話を聞いたり人に伝えたりすることや児童同士で話し合っって考え解決していくなどの学び方が大切であることを知ることができた。
- カリキュラム作成に向けて、子供同士の伝え合い、異年齢交流、言葉に親しむ環境を工夫することなどの言語活動の充実が大切であることが分かった。
- 園で大事にしている子供の主体性が小学校の授業や生活にどのように生かされているのか、園と小学校の教員・保育士の相互理解を更に深め、指導方法の工夫に取り組んでいく必要がある。
- 園と小学校の教員・保育士が、言語活動の充実に向けて、共通の観点で個々の子供の特徴を理解し、指導方法の工夫改善を図る必要がある。

### 4 今後の取組

- 実践したカリキュラムについて、子供の反応を通して検証を行い、修正と充実を図る。
- 教員・保育士同士や幼児・児童の交流活動を通じて、園と学校の相互理解を深め、就学後への見通しにつなげる。
- 園での温かな聞き方、優しい話し方、心が通じ合う喜びを実感できるような教員・保育士の関わりや幼児の様子を観察し、小学校においても、言葉で伝え合う喜びが実感できる授業実践の工夫を図る。
- 両園で実施した、滋賀県総合教育センター作成の「幼児理解のためのチェックシート」から、言語活動で苦手さを感じている子供の個々の特徴・特性を把握し、園・小学校において個に応じた指導の工夫を図っていく。